

はねぎいせきぐん

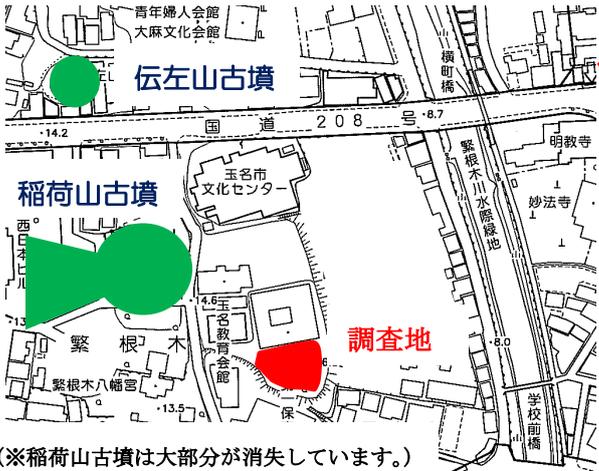
玉名の遺跡 シリーズ② 繁根本遺跡群

【お問い合わせ】
玉名市教育委員会
文化課文化財係
TEL:0968-75-1136
bunka@city.tamana.lg.jp



青銅鏡（方格規矩鏡）

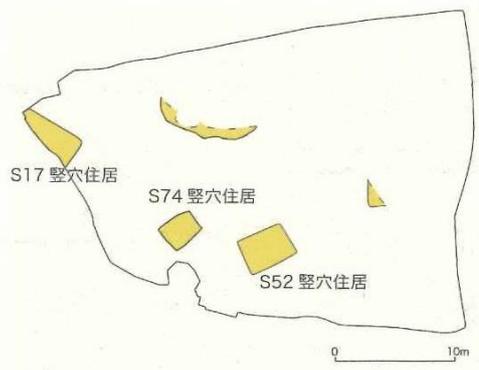
大正時代に当遺跡の石棺内から出土したとされる鏡で、首長間の交流を示す資料と考えられています。【熊本博物館蔵】
出典：『たたかいと祈りと』八代市立博物館企画展示図録 1993



～旧庁舎跡周辺急傾斜崩壊対策に伴う発掘調査～

- 調査地：玉名市繁根本（旧玉名第一保育所園庭部）
 - 調査期間：令和3年1月25日～5月12日
 - 調査面積：1024㎡
- 遺跡は、市街地がある台地の南東端に位置しており、近くには稲荷山古墳や伝左山古墳があります。
- 今回の調査によって、弥生時代から現代に至るまで、土地利用の変遷が少しずつわかってきました。

■弥生時代後期 ～見えてきた弥生人の暮らし～



遺構配置図（弥生時代後期）



竪穴住居跡（S52）

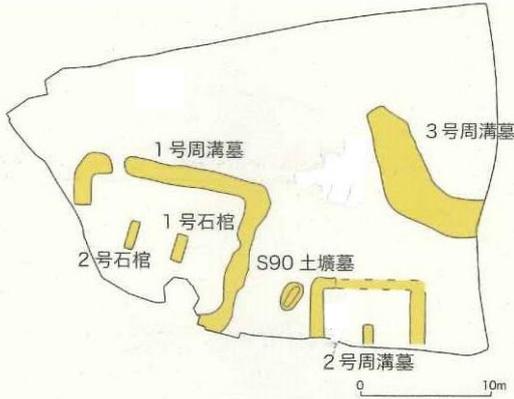


住居跡出土の土器（S17）

弥生時代後期の遺構は、5基確認されました。そのうち竪穴住居跡が3基あり、いずれもベッド状遺構を有し、二本柱という典型的な住居でした。S17は大型の住居であり、多くの土器が出土しました。

■ 弥生時代終末～古墳時代前期

～権力者の出現～



遺構配置図 (弥生終末～古墳前期)

弥生時代後期は居住域でしたが、終末期になると墓域へと変化していきます。調査区では、土壇墓1基、周溝墓3基が確認されました。しかし、ほとんどが盗掘され、石棺も割られている状況でした。先に紹介した鏡もこのような石棺に副葬されていたものと考えられます。



「周溝墓」とは？

円形や方形の溝をめぐるお墓で、溝の内側に遺体を埋葬する主体部があるんじゃ！



1号石棺

東側の主体部で、盗掘されたものと考えられます。



1号周溝墓

一辺が13～15mの方形周溝墓で、2つの主体部がありました。



2号石棺

西側の主体部で、箱式石棺（砂岩の板石）がわずかに残っていました。



2号周溝墓の主体部

一辺が9m四方の方形周溝墓で、主体部は木棺だったと考えられます。



3号周溝墓

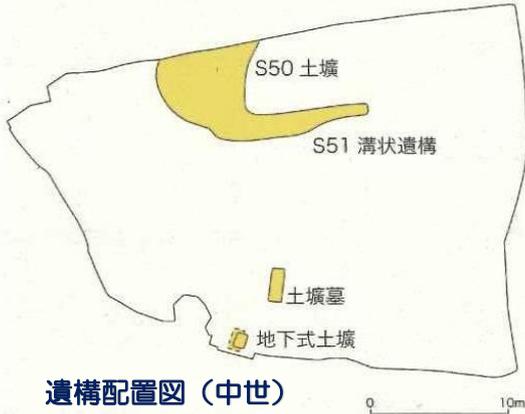
円形に近い大きな周溝があり、直径は20m程と想定されます。溝からは古墳時代前期の土器が出土しており、祭祀を行っていたと考えられます。



3号の周溝内からは、安山岩板石4枚が並んだように出土しました。どんな意味があったのでしょうか？



土壇墓 (S90)



遺構配置図 (中世)

961 年に大野氏により^{かんじょう}勸請されたと伝わる繁根木八幡宮の神宮寺であったのが寿福寺です。寺院は今回の調査地周辺にあったとみられますが、正確な位置はわかっていません。今回の調査でも、寺院に伴う建物跡などは確認されませんでした。地下式坑、土壇臺、土坑、溝がそれぞれ 1 基ずつ確認されました。

「^{じゅふくじ}寿福寺」とは？

824 年に^{かいざん}開山されたと伝わる^{てんだいしゅう}天台宗の寺院で高瀬五ヶ寺の一つです。戦国時代の戦乱で^{すいだい}衰退しますが、江戸時代になり寺勢を回復し、^{こうちやう}豪潮が住職であった頃に最盛期を迎えます。その後、再度寺勢は衰え、明治の^{はいふつきしやく}廃仏毀釈によって廃寺となります。



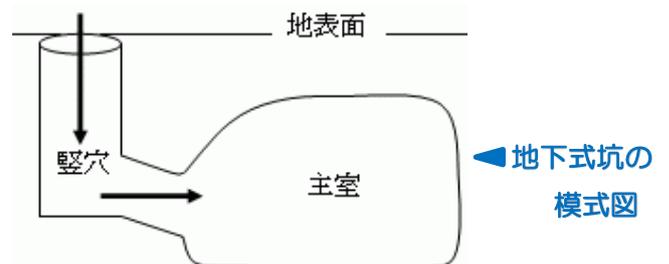
古代の土坑



古代の土坑から出土した土器 (皿など)



発掘調査の様子



検出された地下式坑

出土した皿

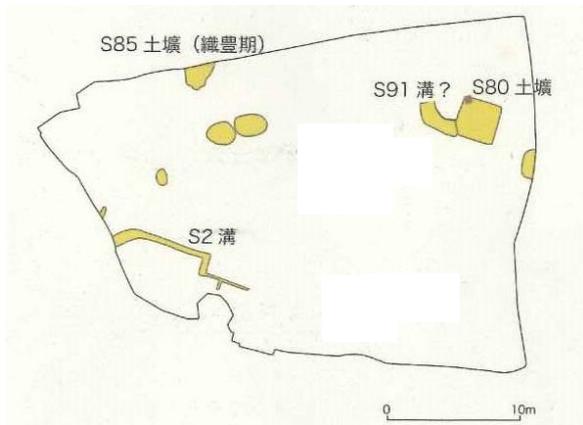
「^{ちかしきこう}地下式坑」とは？

垂直に竖穴を掘って出入り口とし、さらに横穴の空間をもつ構造で、お墓や宗教的な施設という説がある。関東や九州北部を中心にあるんじゃ。

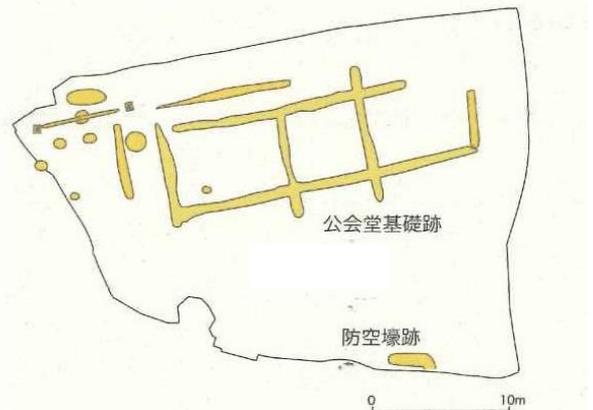


昭和 54 年に実施された調査地北側の玉名市文化センター建設に伴う発掘調査でも、このような地下式坑が 5 基確認されています。今回の調査で検出した遺構からは、素焼きの皿などが出土しました。ここも寿福寺の寺域だったとみられます。

浮かびあがる、土地利用の変遷…



遺構配置図（江戸時代）



遺構配置図（明治～昭和時代）



江戸時代になると、ここには藩によって玉名郡代の詰所が置られました。郡代とは、惣庄屋などの役人を指揮して郡全体を治める役職で、御蔵米の管理、治水の指導監督なども行っていました。

調査では、郡代詰所の関連施設と考えられる井戸跡や排水用の石組み（暗渠）、三和土が施された土坑などが確認されました。



井戸跡



石組みの暗渠



三和土がある土坑 (S80)

明治以降は、公会堂、図書館などの公共関連施設が建てられ、昭和48年4月から令和2年8月までは、玉名第一保育所がありました。調査では、公会堂とみられる建物の基礎跡が検出され、調査区南端部では、太平洋戦争中の防空壕が崩落した状態で確認されました。この地の歴史を物語っています。



公会堂の基礎跡



太平洋戦争中の防空壕跡



防空壕跡出土の統制陶器

※防空壕跡は、調査区東側の崖面にも数基残存しています。